

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4072000336 | | |
| 法人名 | 医療法人 幾嶋医院 | | |
| 事業所名 | グループホーム ゆとり庵 | ユニット名 | ゆとり庵 I |
| 所在地 | 福岡県柳川市田脇760番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年8月16日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年9月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 一般財団法人 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F | | |
| 訪問調査日 | 平成27年8月24日 | 評価確定日 | 平成27年8月30日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初から利用者様ご自身で書き記された「一日一日を大切にがあるがままに自分らしく生き、人として愛され人生を全うしよう」という言葉を平成25年利用者様の入れ替わりもあり新たに書き直しを行って皆の集まるダイニングの壁に貼り毎日全員で読み上げながら胸に刻んでいる。医療との連携を取り、スタッフが観察したことを医療側に毎日二回報告している。食事の面でも薄味を心がけ糖尿病食や貧血、低体重等個人の状態に合わせた味付けや食事形態、食事内容にして注意を払い、毎月の体重測定でBMI値を計算し健康管理を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

柳川市にある“ゆとり庵”は窓から庭が見え、四季折々の自然を感じる事ができる。庭の草取りが大好きな方もおられ、職員と一緒に草取りをされたり、お花を摘んで、お部屋に飾られている。運営者である幾嶋医院の院長先生や管理者(看護師・社会福祉士)への信頼も厚く、職員のメンタルケアも行われ、長く務める職員も多い。運営者の思い(理念)を全職員が共有し、ご利用者の自立支援を続けると共に、楽しみを増やす取り組みも続けている。“ゆとり庵”は幾嶋医院と同じ敷地内にあり、24時間体制で医療連携が図られ、家族も一緒に終末期ケアが行われている。「ここで最期まで」と希望される方ばかりで、看取り時には全職員が集まり、一緒にお見送りをさせて頂いている。ご利用者の身体介護も増えており、人間的な課題も見られているが、常に“一日一日を大切にがあるがままに自分らしく生き、人として愛され人生を全うしよう”という理念の実践に努め、温かいケアを続けているホームであった。

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 祭りや火災避難訓練、地域運営推進会議等で意見を伺ったり、庵内や利用者様の様子を見ていただき説明を行い理解を深めていただいている。 | 「一日一日を大切にがあるがままに自分らしく生き、人として愛され人生を全うしよう」という理念が作られている。ご利用者個々に、喜怒哀楽を含めた思いを伝え合える環境が作られており、帰宅願望の強い方には散歩に付き添ったり、自宅に帰る機会も作られている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域での行事、子供神輿や梅の実ちぎり、梅や桜の花見、公民館文化祭、地域の敬老会、彼岸参りなど利用者も参加し楽しんでいる。 | 地域行事が毎月あり、七ツ家地区の秋祭りや芸能大会、お寺の花祭り、昭代地区の運動会の応援に参加している。幾嶋医院ふれあい祭りでは、ご利用者が赤い法被を着て参加し、地域の方と交流している。今後も小学生の下校時を見守りしたり、幼稚園児との交流を増やしていく予定である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 事業所のイベント、お祭り、火災避難訓練や消火訓練、地域運営推進会議等は地域の方にも案内を出し、参加してもらっている。また、認知症サポーターの養成にも協力している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者や職員の異動、現状報告、ヒヤリハットやインシデント、事故報告、認知症や高齢者に関する話について具体的に話、質問に答えたり意見を伺っている。ご利用者様の日常や行事をパワーポイントで写真を使用して紹介している。 | 奇数月の最終月曜日の14時からの開催に変更し、参加者からも好評である。夜間に開催していた時より、ご利用者との交流も増え、日々の生活状況を理解して頂く機会になっている。毎回、転倒予防や認知症の勉強会も行われ、良き学びの機会になっている。 | 今後も運営推進会議で、様々な立場の地域の方々と情報交換を続けていく予定である。議題に応じた参加者に声かけし、議論を深めると共に、ホームの応援団を増やしていく予定にしている。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 事故報告、運営推進会議で連絡を取っている | 運営推進会議に市役所と地域包括の方が参加して下さり、ホームの取り組みを理解して下さっている。介護保険の制度の相談をした時も親身に対応して下さり、広域連合に事故報告をした時もアドバイスを頂いている。キャラバンメイト養成に参加し、認知症サポーター養成講座を行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 毎年最低一回は高齢者の人権について内部研修を行い、外部研修後は伝達講習を行うことになっている。入浴時など手薄な時は危険防止のためにも一時的に施錠することがある。 | ご利用者の喜怒哀楽に寄り添い、原因分析も丁寧に行っている。毎週主治医と話し合い、適宜内服治療も行われ、症状が治まれば徐々に減薬されている。原則、日中は玄関の鍵を開けており、職員と一緒に散歩を楽しまれている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止法については内部研修を行って知識の確認をしている。コンプライアンスルールを作り、掲示して周知徹底を図っている。管理者は不定期に庵内を回り言葉遣いやケアの仕方、利用者の状態などを確認している。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護の制度について毎年1回内部研修を行っている。活用する際には管理者はその必要性を職員に説明し理解させている。 | 管理者が社会福祉士であり、毎年の研修時に職員も権利擁護の理解を深めている。入居時に家族に制度の説明を行っており、成年後見制度を利用している方もおられ、後見補佐代理との情報交換をしている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には十分に時間を取り、契約内容を理解してもらうよう努めている。また質問や疑問、要望に関してはいつでも受け付けていることもお知らせしている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 公的な相談窓口を契約書に明示し、口頭でも説明している。年2回家族へのアンケートを取っており、その内容を会議の場で発表し要望があれば検討して運営に反映させている。 | 「家族とのつながりを大切にします」という理念のもと、面会時などに情報交換している。「家族との触れ合い行事」への意見も頂き、行事の案内を増やす取り組みも行われ、一緒に花見に外出し、お弁当を食べる機会も作られた。家族が「ふれあい祭り」でピアノを弾いて下さる方もおられる。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月1回の会議の場や日常的に意見を聞くようにしている。 | 職員からの意見を大切にしており、日々の業務に関するアイデアや意見も多い。チームワークを結集し、担当者（在庫係、レク係など）を決めて業務に取り組みされている。人員補充への対策検討も続けており、今後もホームの応援団を増やしていく予定である。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回査定があり、管理者や職員の勤務状況を把握し、各自が向上心を持てるよう賞与や時給を個別に査定している。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している | 勤務時間が大幅に増えすぎないよう人員の確保に努め、残業にあたっては残業指示書を書きサービス残業にならないようにしている。 | 20～70歳代までの男女の職員が勤務している。採用時は、“ゆったりとした人”でホームの環境に馴染める方や“向上心のある方”なども大切にしている。採用後は、パソコン・和裁・畑仕事・料理など、職員の得意分野を發揮して頂いており、優しい職員が多い。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 理念にもあるように「人として愛され」ることを常に念頭に置くよう指導している。 | 管理者やリーダーは、日々のケアやミーティング等で、「ご利用者を自分の肉親だと思って接してください」と伝えている。コンプライアンスルールも作り、“言葉かけ”などの具体的なルールが明記されており、気になる言動が聞かれた時は注意が行われている。 | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|---|-------------------|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年1回は全員外部研修を受け、又その伝達講習を行うこととしている。また毎月の会議の場で内部研修を行っている。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 柳川・みやま地区介護サービス事業者連絡会に入会しており、研修の参加や地区内の事業者との交流を行っている。 | | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 家族やゆとり庵入所前の施設、病院等からアセスメントや担当者から直接情報を集め準備を整えて本人から要望を聞いている。声掛けを行い、利用者の言葉を傾聴し、談話しながら関係づくりを行っている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居の申込みや見学に来られた時から困っていることや不安など相談に乗り、入居後も面会時に不安の無いよう利用者の状態を報告している。職員も家族と談話する事で関係が出来るので挨拶や会話を心がけている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者情報を検討し必要な支援がグループホームでなかった場合は他の事業所を紹介、助言している。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 出来る事は手伝ってもらい一緒に仕事し普通に感謝の言葉を述べ、一緒に同じ食事を摂っている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に現状報告を行い、ゆとり庵で困っていることを家族の協力で改善できることもある。面会時にはお茶を出すくらいで家族水入らずで過ごしてもらっている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族の協力を仰ぎながら機会があれば連れて行ってもらっている。また、何度も来てもらえるよう挨拶や雰囲気作りに努めている。 | 家族と一緒に美容院やお墓参り、法要などに行かれる方や、自宅で友達とお茶会をされたり、ご利用者の職場の同僚が来て下さっている。瀬高の清水寺が馴染みの場所の方も多く、一緒に参拝したり、毎年の花見の場所が馴染みになっている方もおられる。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合う者同士は席を隣にすることで会話も弾み、洗濯物たたみ等家事手伝いも協力してやってもらっている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 殆どが死亡退所であるが退所後も家族が訪ねてこられ本人の事を懐かしく話題にされることがある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 散歩の好きな利用者には付き添って敷地内を一周したり、自分で髭剃りをしたいとの要望があればその時にそれるように手配する。 | 面会時に要望を聞くようにしているが、今後も更に家族の心配な事や不安などを引き出せるように努める予定である。家族や主治医との面談にも立ち会い、ご本人の状況把握に努めると共に、意思疎通が難しい方は、表情や行動から気持ちを汲み取るようにしている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一緒に生活していく中で気づいたこと、気になったことは家族面会時に確認することによって新たな情報となる事がある。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 小さな変化、気付いたことなんでも記録に残し職員間で午礼時に現状報告しあい把握に努めている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月の会議の場でそれぞれの職員が入手した本人、家族、主治医などからの情報を元にした職員全員で話し合いを参考に計画作成している | “トイレで排泄”等の具体的な目標が作られ、“家族との外出支援”“配膳・下膳”“洗濯物たたみ”“畑仕事”などの役割も盛り込まれている。できる役割を見極め、待つケアを続けており、入居時に「全介助」だった方も、自立できる部分が増えている。今後も家族の役割を追記していく予定である。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録にその日の気づきを毎日記録している。毎日の午礼時や毎月のケア会議で情報を共有したり問題点を検討しあったりしている | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 錠剤を呑みこめなくなった利用者には薬剤師に安全を確認の上粉砕して服用していただいている。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域運営推進会議の時にパワーポイントで日常どのような生活をされているかを紹介し、出来る事や出来ない事を理解していただいている。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 契約時に主治医と面談を行い、十分に説明を行い、質問を受けている。状態に変化が見られ、主治医の説明が必要な時はその都度主治医より説明がなされている。 | 毎週の受診時を含め、院長先生との情報交換が行われている。医療面やケアに対する指示を頂いており、院長先生と家族がお話する機会もある。眼科等は家族が受診介助しているが、家族の都合に応じて職員が介助している。重度化予防のためにラジオ体操なども行っている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職場内の看護師と訪問診療、受診の報告や申し送りを行い連携をとっている | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 近隣の病院や退院後の受け入れ先の問い合わせがある時などに互いの情報交換を行ったり両者の受診時に情報交換をしたりと関係作りに努めている。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人には知らせていないが、家族には主治医からの説明と同時に介護についての説明をおこない、同意と協力をお願いしている。 | 入居時に“終末期の方針”を説明し、ご本人や家族の意向を確認している。「最期までここで…」と希望される方ばかりで、この2年で6名の看取りケアが行われた。家族も、ご本人が好きな果物を持参して下さい、食事介助もして下さい。24時間体制で管理者(看護師)と院長先生が駆けつけて下さい、職員の安心になっている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 会議時にヒヤリハットやインシデント、事故報告の記録を検討し、緊急マニュアルを見直し、応急手当など確認している | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に防災訓練を行い、その都度反省点を挙げよりスムーズに避難できるよう検討、努力している。 | 毎月の通報訓練と共に、消防署や消防団、地域の方等と夜間想定訓練が行われている。水害時は2階に避難予定になっており、災害に備えて缶詰や乾パン、水等を準備している。今後も地域の方も一緒に見守り訓練を経験して頂いたり、頭巾にもなる座布団作り等も検討予定である。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 話しかけの言葉使いは親しみが感じられる程度には方言等使用している。また、幼児語の廃止や年長者に対するような言葉かけを心がけている。 | 日々の業務で、「個人情報漏らさない・言葉かけに配慮する」などの指導が行われ、「排泄時にはドアを閉める」等の基本的なケアの徹底も行われている。入浴時等はタオルを前に当てる等、羞恥心への配慮も続けている。 | 時にケア時の声かけが大きくなったり、語尾が強くなる時があり、適宜注意が行われている。今後も引き続き、「自分がその立場になったら」「ご利用者が一番」と言う思いでケアが行えるよう、勉強会などを続けていく予定にしている。 |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 誕生日には本人の好きな物を昼食に取り入れている。レクリエーションでしたいことを聞き行うようにしている。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日中でも休みたいとの希望があれば居室で休んでもらったり、起床時間が遅い利用者には朝食を合わせて提供している。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分で出来る利用者には好きな服を着てもらおうようにしている。出来ない利用者には好きな服を聞きながら服を決めている。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | もやしの下ごしらえや野菜の皮むきなど出来ることはやってもらう。食事のつぎわけや配膳、下膳、後片付けもしてもらう。職員も混じりテーブルの好きな所で食べてもらっている。 | 施設長と栄養士が献立を作成している。“がめ煮”や“うなぎ”などの郷土料理と共に、毎月、ご当地メニューを採り入れている。1日と15日はお赤飯であり、木曜はパンの日になっており、ご利用者も楽しみにされている。畑の野菜と一緒に収穫し、ご利用者が“できる事”をして頂いている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 主治医、管理者と話し合い、食事量や水分量を調整している。水分が入らない利用者にはゼリーを作って補っている。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自分で出来る利用者には全面所に誘導し、してもらっている。自分で出来ない利用者、拒否のある利用者には液体歯磨きでうがいしてもらいが、ガーゼに含ませて拭いている | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄のチェックを行いパターンを掴み声掛け誘導を行っている。 | トイレでの排泄を大切にされている。下着を着用し、排泄が自立している方もおられ、失禁時はさりげなく声かけし、素早く取り替えをしている。トイレの理解が困難な方もおられ、根気強く「排泄の仕方」などの説明を続けている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の利用者には腹部マッサージを行ったりバナナやサツマイモ等繊維質の多い食物を摂ってもらっている。水分も十分に摂ってもらうよう心掛けている | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的に日時が決まっているが、その時の状態により決められた時以外でも入浴、シャワー浴、部分浴、清拭を行っている。 | お風呂好きな方が多く、体調に配慮しながら湯温や入浴時間等の要望に応じている。入浴剤と共に、季節に応じてザボン湯、柚子湯、菖蒲湯などを楽しまれ、仲の良い方と一緒に入られる方もおられる。入浴を拒まれる場合は声かけを工夫し、気持ちよく入浴できるようにしている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼夜逆転にならない程度に、臥床したい利用者には臥床してもらいが、食事やおやつ時には離床を促している。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人一人の薬に関しては、薬剤情報ファイルにて理解し、確認し合っている。また薬が変わった時は看護師に確認しその後の変化に気を付けて主治医に報告している。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 各利用者の能力に合わせて家事手伝い等してもらい感謝の言葉をかけ、役に立っている、必要とされていると感じてもらえるようにしている。誕生会やクリスマス会などイベントを企画し楽しんでもらっている | | |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 人員の都合がつけばお連れする。家族にも協力してもらい出来るだけ外出を支援している | ホームの庭のベンチで団欒したり、散歩に出かけている。四季折々の花見(桜・ひまわり等)に行かれたり、ゆめタウンの庄屋で外食をされている。柳川市内の喫茶店での外食、かんぼの湯で“さげもん”見学、イルミネーション見学と共に、毎年恒例でもある、大川の紅粉屋に琴奨菊関に会いに行く機会も作られている。 | 全員での外出が困難になってきており、少人数での外出企画を続けている。今後も家族の方や地域の方の協力を頂きながら、四季折々の外出を楽しむ機会を増やしていきたいと考えている。 |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭の自己管理が出来る利用者はおられないため所持してもらっていない。職員と一緒に店に出かけ好きなおやつを購入してもらうことはある。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状を家族あてに書いてもらっている。自分で書けるところを書いてもらい、職員が手伝う。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 廊下やリビングに季節の花を飾ったり、置物をおいたりしている | リビングは床暖房であり、インフルエンザ予防等も兼ねて、空気清浄器付の加湿器を活用している。1つのユニットは神棚があり、ご利用者が手を合わせる姿も見られている。窓からは庭が見え、四季折々の自然を感じる事ができ、庭の草取りが大好きな方もおられ、職員と一緒に草取りをされている。職員と一緒に歌を唄ったり、会話が弾んでいる。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングや居室で仲の良い利用者同士で話ができるよう努めている。逆に不穏な時は他の利用者から離して落ち着いてもらっている。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所の際に出来るだけ馴染みの物を持ち込んでほしいと要望するがあまり持ち込みはない。テレビを持ち込まれている利用者もいるが現在使用されていない。 | ご利用者も一緒に朝から掃除を行い、綺麗な環境で過ごされている。自宅からタンスや座イス、鏡台、家族の写真など、馴染みの物を持ちこまれており、信仰のお札の前で、お経を唱える方もおられる。散歩の時に積んだお花を部屋に飾られている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個室と共用の部分があるが、個室は出来るだけプライバシーを尊重し好きなように使ってもらっている。毎朝了解を得て掃除に入らせてもらうが、散らかっている時は利用者と一緒に片づけている。 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|--|----|---|--|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |